
やおよろずの掲示板

清流院さらさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やおよろずの掲示板

【Nコード】

N5366G

【作者名】

清流院さらさ

【あらすじ】

小さいころ、知らないお姉さんからもらったペンダントに刻んであった掲示板サイトのアドレス。その掲示板は「この世の不思議なこと」を八百万集めるための掲示板だった。この掲示板が、すべての元凶だった。

く夢の痕く（前書き）

この小説はホラーといいながら、実はグロです。そこまですはありませんが、一応聞きます。OK？

く夢の痕く

この世が不思議にならないなんて、あなたはおかしすぎる。と、誰かに言われた。小さいときの話だ。

来週末、都会の大学に通うために、育った家を離れる。今は、引越しの準備。子どものときから使っていた部屋を片付けていると、昔知らないお姉さんからもらったペンダントを発掘した。

多分、そのお姉さんに言われたのだ。そして、お姉さんはこのペンダントをくれた。ゴテゴテと飾りの付いたものではない。真つ赤な石がはめられた、小さなペンダント。もらったときは「ルビーだ」と大騒ぎしていた。もちろんただのガラス球。だと思う。調べたわけじゃない。でも、知らない子どもに、宝石なんてあげるわけがない。

すっかり忘れていた。

いや、ど忘れしていたのだ。

なんとなく、首にかけてみた。つけてみると、意外と自分によく似合った。

赤は、好きだ。元気がでる。無邪気な色。

「ねえ、ちよつと。片付け終わったの？」

あ、母が上がってきた。年に似合わぬ厚化粧。ファンデーションの力は恐ろしく、五十代後半の中年女性を、三十代にまで若々しくさせる効果がある。

白いスーツドレスを着た母は、同じ色の高そうなバッグを振り回し、部屋を睨みつけた。

「あたしが帰ってくる前には、終わらせておいてよね。」飯は冷蔵庫の中に入ってるから。チンして食べて。」

返事も聞かずにどたどたと階段を下りて、外へ出た。まもなく、真つ赤なスポーツカーが我が家から発進していった。

その光景を何も言わずに見送ると、ベッドに倒れこんだ。

ベッドサイドにおいていたケータイをいじる。新着メールはなし。電源を切る。

腰が痛い、耳鳴りが聞こえる。

いや、耳鳴りは違うな。多分、最近買ったノートパソコンの音だろう。

と、また思い出してペンダントを見た。目が痛くなるほどの真つ赤。赤の中にはまた赤が・・・。

・・・いや？

・・・なんだ、これは？

・・・アルファベット、だった。

赤い石の中に、彫られている。とても見えにくいのが確かにアルファベットだ。

ベッドから跳ね起きてメモ帳とシャーペンを探した。かばんの中から、数学のノートとペンケースを見つけて引っ張り出した。先週、高校を卒業したが、片付けるのもめんどくさくてそのままにしていたのだ。

何度か間違えながら、一文字ずつ写していく。

そして、時間を使いながらも文字列が完成した。肩と目が痛い。文字列はこのようなものだった。

<http://minnaboard.jp/yaoyorozu-keijiban>

pass : believe yourself

何だ、これは……。サイトのURLサイトのアドレスか？

URLに書いてある、「minnaboard」は、確か参加型書き込み掲示板のことだ。会員になると、掲示板を作って書き込みしてもらうこともできる。

しかし、このサイトは二年前に作られたばかりのサイトだ。どうして、何故このペンダントにはこんなものが。

そして、もうひとつ。

IDとパスワードが、ある。

もちろん会員登録なんてしたことがない。友達がしていたはずだが。

何かの間違いということもある。もしかしたら、本当はURLではないのかも。

……やってみよう。

インターネットに接続し、打ち込む。

カタッ

エンターキーを押すと、矢印が砂時計に変わった。下の読み込みバーがすぐにいっぱいになった。

「いらっしやい、待っていたわ。三番さん。」

突然だった。

声が、した。

パソコンは音声をミュート（消音）にしている。

どこから……

と、ゆっくり後ろを振り向いた。

電源を切っていたはずのケータイが、光っている。画面に何か

書いている。

From: あの日のお姉さん

真冬の午後三時。これが後に起こる恐ろしい事件の幕開けだった。

く夢の痕く（後書き）

はじめまして。清流院さらたです。

脳内ファンタジーがはじめてホラーに挑戦です。頑張ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5366g/>

やおよろずの掲示板

2010年10月28日03時34分発行